



ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

三陸ジオパーク全体研修交流会を開催しました

《これからの三陸ジオへの期待》

JGC委員 菅原 久誠氏をお招きして

三陸ジオパークの関係者が一堂に会し、活動状況やその他のジオパークに関する情報を共有するとともに相互の交流を図り、市町村や所属を超えた連携及び対話によるネットワークを生かした広域ジオパークの推進体制を構築するため、3月19日に釜石市内において、三陸ジオパーク全体研修交流会を開催しました。

以前には、毎年実施していたということですが、コロナの時期を挟み、久しぶりに顔を合わせての交流会となり、ガイドも合わせて約70名が集まりました。研究助成の成果発表会も画面中継で開催し、(タイトルと発表者の掲載は、下記の通り↓↓) また、各市町村を代表して5名の方に各地域での取組み事例の発表をしていただきましたが、これからのジオパーク活動の参考になるような素晴らしい内容ばかりでした。

《さんじおスイパラ?!》

会場内にて臨時開催



広域ジオパークならではの企画となりました!



市町村のジオ担当者からひとこと紹介も

会場内では、ランチタイムに交流会となりましたが、各市町村からのおススメ品を持ち寄っていただき、はからずも『スイーツパラダイス』の状況に♡ 普段聞いたことのある有名なお菓子でも、食べたことのない商品がずらりと並び、どれにしようかと迷う方も続出。しばし和やかな交流の場がとても賑わいました。大好評で良かったです♡

○三陸ジオパーク研究助成成果発表会

- 1 「分子系統地理学的解析から探る三陸地方の海藻植生の変遷」
北里大学海洋生命科学部 講師 羽生田 岳昭氏
- 2 「ジルコンU-Pb年代法を用いた北上山地年代末詳層の堆積年代の検討」
栗駒山麓ジオパーク推進協議会 専門員 原田 拓也氏
- 3 「三陸沿岸における絶滅危惧種オオセッカの渡り中継地の特定」
岩手県立博物館 専門学芸調査員 高橋 雅雄氏
- 4 「三陸ジオパークの景観が規定する海域の遺伝境界：海産巻貝を用いた検証」
東邦大学理学部生命圏環境科学科 講師 山崎 大志氏



会場は 釜石PITを貸し切って

三陸ジオパークアンバサダー 後藤萌咲さんと行ってきました!!

さんてつジオトレイン 山田船越

三陸鉄道(株)と三陸ジオパークの連携事業の「三鉄ジオトレイン」は、11月から山田町の皆さんと後藤萌咲さんも一緒に、企画会議や現地下見なども実施した特別プランの催行となりました。当日は、とても天気良く、ガイドさんと萌咲さんの案内で、船越のまちの宝を探すウォーキングに。各地域には、まだまだ知られていない意外なホットスポットがありそうですよ! (3ページに続く)



宮古駅から出発!



わらび手刀のレプリカが登場



ゴールは 海と鯨の科学館

ジオトレイル関係者研修交流会 in 陸前高田市

◆当日のスケジュール◆

- ① 9:45~10:30 講義
- ② 11:00~12:00 東日本大震災津波伝承館にてフィールドワーク
- ③ 13:45~15:45 ワークショップ「三陸ジオパークとみちのく潮風トレイルの連携について」



岡田自然保護官の講義の様子

3月22日(金)に陸前高田市にて大槌町から気仙沼市までのエリアを対象としたジオトレイル関係者研修会が行われました。研修会には市町村の観光担当者や認定ガイドの方々が集まり、講義やワークショップを通して、三陸ジオパークとみちのく潮風トレイルの連携について考えました。

① 講義

はじめに、環境省自然環境局大船渡自然保護官事務所の岡田 真次 自然保護官から、主にみちのく潮風トレイルの概要や三陸ジオパークとのつながりについて講義がありました。

平成24年12月に策定された東北太平洋岸自然歩道基本計画（みちのく潮風トレイルの基本計画）において、地域を代表する優れた自然や景観地、人々の暮らしや文化を感じられるような集落など、歩いて興味をそそられる地点を通過することを想定し、みちのく潮風トレイルの路線が設定されました。その際想定された6つの通過地点のうちの一つに「地球活動の遺産を見学できる場所(ジオサイト)」が設定されていることや、みちのく潮風トレイルと三陸ジオパークの両方を活用したPR事例の紹介等から、トレイルとジオの関わりについて学ぶことができました。

② フィールドワーク

講義のあとは東日本大震災津波伝承館にてガイドの方に館内を案内していただき、震災当時の津波の映像を視聴しました。館内には当時の津波の恐ろしさを物語る被災物や震災当時の人々の記録が残されており、津波の恐ろしさについて改めてよく考えさせられました。



フィールドワークの様子

③ ワークショップ

ワークショップでは3グループ（1グループ5名ずつ）に分かれ、ジオとトレイルそれぞれの「課題・現状」、「理想の状態」、「具体的取組」について意見を出し合い、グループごとに発表しました。

ジオとトレイルの共通の課題として多く上がったのは、「認知度の低さ」であり、それを解決するアイデアとして、ジオやトレイルとのコラボ商品の製作や、トレイル用ナビアプリの運用など様々な意見が出されました。



ワークショップの様子

今回の研修会参加者からは「これまでジオとトレイル各々の関係者が関わる機会があまりなかったの、いい機会になった。」といった声が多く、みちのく潮風トレイルが今年で全線開通5周年を迎える中、ジオとトレイルの連携を目指すうえで実りある研修会となりました。この研修を通して学んだことを今後、ジオとトレイルをPRする方法を考える際に活かしていきたいと思えます。

(記：北田)

《さんりくジオ博物紀行》



お台場から見た浄土ヶ浜

4月の晴れ渡った休日に、浄土ヶ浜を訪れました。
浄土ヶ浜は、今から4000～5000万年ほど前の古第三紀に噴出してつくられた流紋岩から成り立つ景勝地であります。流紋岩には流離構造(マグマが流れた後)や割れ目が見られ、割れ目が多い部分で浸食が進んだ結果、現在の浄土ヶ浜の地形が成り立ちました。浄土ヶ浜では、屏風のような岩のおかげで外洋からの海風が遮られ、波が穏やかになり海水浴に適した場所になります。



遊覧船の側を飛行するウミネコ

三陸沿岸には広範囲にわたってウミネコが分布しており、浄土ヶ浜もウミネコの生息地の一つになります。サップ船や遊覧船からの給餌も可能になります。餌を求めて船に近づいてくるウミネコの特徴や飛行する様子を間近で確認できるのが、興味深いです。



カタクリ

ウミネコ以外にも、様々な動植物を観察できます。この時期には、カタクリの花が見ごろになります。林床に強い光が届いている春の間に芽を出し、花を咲かせます。三陸を含めた東北地方の植生は、落葉広葉樹で構成される夏緑樹林が中心になり、カタクリはその植生下で適応した種の一つになります。

カタクリのように季節により異なる動植物が現れるのが、浄土ヶ浜の魅力の一つでもあります。清掃活動に参加した際には、ほとんどゴミが落ちておりませんでした。ゴミの清掃が徹底されていることで、野生生物が住みやすい環境が保たれていると感じました。季節ごとに浄土ヶ浜を訪れて景観美を楽しむとともに、動植物の違いを見つけるのも面白いかと思います。(記：大河原)

《三鉄ジオトレイン山田》

3月24日に行われた三鉄ジオトレイン山田のイベントでは、三陸鉄道で宮古市から山田町までをめぐり、山田町の焼山遺跡、鯨と海の科学館を訪れました。伊藤ガイドの解説で製鉄やタブノキの北限地など、山田町に関する理解が深まったツアーになりました。

岩手船越駅を降りて、最初にタブノキが目に入ります。北限地ということで、黒潮の影響を感じられた場所でもありました。

焼山遺跡での説明には鉄剣のレプリカが登場し、姿かたち、重さまで再現しているということだったので、参加者の皆さんは実際に手に持って見る事ができて、実感していました。また科学館でのミンククジラとマッコウクジラの実物大の標本展示から、実体験での学びの重要性を改めて認識しました。

途中で訪れた道の駅で、初めて味わった「山田せんべい」や「すっとぎ」はとても気に入りました。特に「すっとぎ」については、材料に青大豆を使っていて、東北独特の米がとれない環境において地域の工夫から生み出されたお菓子であることや作り手によっても「すっとぎ」の味が違うと聞き、とても感心しました。

他にもまだ知られていない山田町の魅力があるかもしれないです。山田町に限らず、三陸の町々をぶらりと歩きながら地域の魅力に気づいていきたいです。(記：大河原)



岩手船越駅付近のタブノキ



岩手船越駅の釜石方面ホーム

年度が変わり、2年目になりました盛合です。今年度も引き続きコラムを担当しますので、どうぞよろしくお願い致します。

個人的な話ではありますが、昨年度末頃から、専門員として研修や勉強会等でお話させていただく機会が増えてきて、今年度も既に何件かオファーをいただいております。大変ありがたいと思うと同時に、ジオパークのことを分かりやすく伝える技術を更に磨いていく必要があると感じています。

また、今年8月末には下北ジオパーク（学生時代の研究フィールド）で全国大会が開催されるということで、私の3年間の研究成果をまとめた内容をお話する予定にしております。興味がありましたら、発表ブースの方に来ていただければと思います。

なお、大会への参加登録は5月13日（月）から始まっておりますので、皆様是非ご参加ください。



庁舎内の職員研修会の講師を担当し、地域の産業と関連するジオパークの話をしました

○事務局新メンバー紹介



長身の館下さん

4月より三陸ジオパーク推進協議会事務局に着任いたしました、事務局次長の館下巨暉（たてしたなおき）と申します。

県庁職員として、今年4年目になります。初任地は復興防災部復興くらし再建課で、主に沿岸地域の水産加工事業者の販路拡大等の支援を行っておりました。

県職員でありながら、盛岡市以外に住んだことのない私にとって、今回初の人事異動で、どの市町村に関係する配属先になるのかと、発表になるまで実は不安の毎日を過ごしていました。

少しでも繋がりのある市町村で勤務したい…！と思っていたのですが、その中で真っ先に思い浮かんだのは宮古市でした。大学時代に所属していた学生団体「僕らの夏休みProject」の活動で、宮古市にはたびたび訪問する機会があったからです。

「僕らの夏休みProject」活動とは、当時18大学のメンバーが学校ごとにチームを組み、夏休みに宮古市・山田町・大槌町・釜石市の小学生たちと交流するものです。私の担当していた小学校は磯鶏小学校でしたので、宮古市には勝手に縁を感じておりました。

そのようなところで、この度三陸ジオパーク推進協議会事務局への配属が決まり、ささやかな希望が叶った喜びと、三陸ジオパークの推進という難しくも興味深いテーマに対しどう取り組んでいけるかという新たな不安と、様々な感情が入り交じった状況から始まったのですが、自分なりに一歩ずつ地道に頑張りたいと思います。

宮古地区合同庁舎の2階にありますので、どうぞよろしくお願い致します。

令和6年度 事務局メンバー

事務局長	桜田 功
事務局次長	館下 巨暉
専門員	盛合 秀
推進員	阿部 智子
コーディネーター	山岸 学
専門員	大河原 秀祐

編集後記： 三陸ジオパークの事務局は、現在6名体制となっています。いつも毎年4月は総会準備から始まるのですが、例年の忙しさとは違った1か月がまたたく間に過ぎていきました。ということで、今号も4ページの合併号編集となりましたが、執筆担当が増えて、とても充実した98号になったと思います。読者のみなさまからの寄稿もお待ちしておりますので、ジオにつながる地域の紹介やイベント情報なども、ぜひお寄せください。 ～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

（宮古地区合同庁舎2階）

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/ facebookはこちら！

